

山桜の里 戸赤

いのちの絆たく



戸赤長寿会
の
敬老会

戸赤の全人口 39 人、20 世帯

老人会員 24 人、16 世帯

花
豆栽培



敬老会出席 15 人、20 世帯

【平成26年9月14日現在】

福島民報情報ナビ[タイム]26.9.25 版

【木地の学習No.47】…木地師が移住する場合、相手村の受け入れ承諾、通称「ワラジ脱ぎの家」という身元引受人、それに現在居住している藩の人別枝けの許可も必要になってくる。ここまで完了すると、人別送り状(分限送り状)を作成してもらい、それを持って移住先の村へ提出する。村では「人別受取状」を相手方の村へ送って、ようやく移住の手続きが終わったことになる。又、これに伴って「寺送り状」ともいふべきものがある場合もある。針生を中心とした御蔵入の地へ、信州及びその隣接県から移住して来たことは前述した。ここでは各戸屋あるいは個人について、どこから移住してきたかを見てみよう。

他領から御蔵入へ 「君ヶ畑氏子狩帳寛政十二年」の御蔵入滝ノ原山木地には、小椋宗十郎他木地師の記載がある。この集団は「近年甲州より参り候」とあって、寛政七(1795)年をそう遠くさかのほらない年に、山梨県から来たことが知られる。甲州の以前は信州に居住していたと思われる。その後文化初年には針生黒森小屋へ合流している。甲州から会津入りするとき、滝ノ原と黒森の両小屋へ分かれたものと考えられる。小椋宗十郎の本名姓は、「佐藤」である。文政六(1823)年黒森で亡くなっている。会津領川島組横川山木地師 木地挽分限送状…この文書によると文化七(1810)年に滋賀県から来たようになっているが、実は信州からの渡木地である。滋賀県永源寺町蛭谷の文書には…とあることから、信州よりの移住であることが知られる。分限送り…浪合村は、現在の下伊那郡浪合村であり、この時期に仙台領鳴子、鬼首、一ノ迫に展開した木地氏達は、信州浪合村とその周辺より移動した人達である。他領から御蔵入した木地師の出身地と移住先を示したものが表8である。…

「(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より)〈つづく〉」

ここは、絶好の遊び場



海の子山の子アドベンチャー事業の川遊び



そば打ち体験



ヨーグルトづくり体験



今年初めての
キャンプファイヤー



実績は区総会で報告されます。受け入れは区民のみなさんの協力で、いいおもてなしができたと思えます。折を見て「やまざくら感想ノート」などでお知らせします。

収穫祭予定
日程は、稲刈終わって
からとして、あとで
お知らせします。

夏が終わり、やまざくら自然体験施設の利用も一段落しました。今年は特に「ふくしまっ子」の補助事業を利用したお客様が多く、昨年よりたくさんご利用していただきました。

みんな協力して
おもてなし

(ストーリー性のある村づくりのために【No.16】・下郷町史 下郷町は福島県でも内陸部にあたり、会津地方南東部の山間部に位置する。町の周囲には1000m級の山並みが連なり、町の中心部はおよそ標高470mを測る。平成二十年現在、これまでに実施された「下郷町遺跡分布調査報告書」(1990)の他、福島県による遺跡地名表にかかる調査や、各種工事によって存在が知られた縄文時代から明治時代にわたる遺跡が一四七カ所確認されている。縄文時代100カ所、弥生時代31カ所、古墳時代3ヶ所、奈良・平安時代18カ所等である。これらの遺跡は町の中央を北流する大川(阿賀川)を中心に、主に大川と支流の加藤谷川や戸石川・鶴沼川の合流地点の段丘上や沢の開口部など水利に恵まれた地点に営まれている。一方豊成地区の見明山山麓の扇状地奥地部や支流を離れた柏木原、雑根や観音川支流の南倉沢、三倉山山麓の音金地区、那須沢山北麓の赤土地区の標高750mを超える山間部にも縄文時代から歴史時代までの遺跡が分布していたことが知られている。「下郷町史-第7巻通史編(発行・下郷町)」より出典(続く)